

2017年12月5日

株式会社 電通

代表取締役社長執行役員 山本 敏博

(東証第1部 証券コード: 4324)

電通、インドネシアの大手デジタルパフォーマンスマーケティング会社 「バリュークリック社」の株式100%取得で合意

株式会社電通（本社：東京都港区、代表取締役社長執行役員：山本 敏博、資本金：746億981万円）の海外本社「電通イージス・ネットワーク」は、インドネシアの大手デジタルパフォーマンスマーケティング会社「PT Valuklik」（本社：ジャカルタ市、CEO：Rahul Nambiar、以下「バリュークリック社」）の株式100%を取得することにつき、同社株主と合意しました。

2012年に設立されたバリュークリック社は、SEM（検索エンジンマーケティング）、SEO（検索エンジン最適化）、ソーシャルメディア、運用型広告などの領域を扱っており、現在では55名の社員を抱えるインドネシア大手のデジタルパフォーマンスマーケティング会社へと成長しています。同社はGoogle社のプレミア・パートナーであるほか、インドネシア内外のプラットフォーム事業者など多数のネット企業とパートナー契約を結んでおり、多方面から高い評価を得ています。

株式取得後、当社はバリュークリック社を当社グループのグローバルネットワーク・ブランド[※]の1つで、デジタルパフォーマンス領域に強みを持つiProspect（アイプロスペクト）のインドネシア拠点と合併させ、社名の呼称をiProspect Valuklik（アイプロスペクト・バリュークリック）に変更します。

また当社は、バリュークリック社のブランドで、デジタル分析に強みを持ち、Google アナリティクスのインドネシアにおける最大の認定パートナーの一つであるPinnacle（ピナクル）をiProspect（アイプロスペクト）と合併させ、iProspect Pinnacle（アイプロスペクト・ピナクル）に改称します。

電通イージス・ネットワークが本年6月に発表した「世界の広告費成長率予測」によると、インドネシアの2017年と2018年のデジタル広告費は、それぞれ前年比で45.3%増、37.5%増と大幅に伸長する見込みで、デジタルは2017年には媒体別でテレビに次ぐ第2の広告メディアとなる見通しです。

なお、本件が当社の2017年12月期の連結業績に与える影響は軽微です。

[※]電通の海外事業を統括する「電通イージス・ネットワーク社」（ロンドン）は、10のグローバルネットワーク・ブランドを中心に世界でビジネスを展開しています。10のブランドとは、Carat、Dentsu（Dentsu Brand

Agencies) 、 dentsu X、iProspect、Isobar、mcgarrybowen、Merkle、MKTG、Posterscope、Vizeum を指します。

【バリュークリック社の概要】

社 名 : PT Valuklik (バリュークリック社)
本社所在地 : インドネシア・ジャカルタ市
設 立 : 2012年6月
株主構成 : 株式取得後、電通イージス・ネットワーク 100%
収益(Revenue) : 205億インドネシアルピア (約1.7億円) (2016年12月期)
代 表 者 : Rahul Nambiar (CEO)
Cleosent Randing (Founder)
従業員数 : 55名
事業内容 : デジタルパフォーマンスマーケティング領域全般のサービスを提供

以 上